

つるがしま里山サポートクラブ 活動報告書 (令和6年度) 2024年度

活動日時	月	日	曜日	開始	終了	場所	会員参加数
	11	22	金	9:00	13:00	太田ヶ谷の森	3
活動名称	小彼岸桜ロボティックセンター内の移植作業					報告者：小沼	

<活動目的>

太田ヶ谷の森東側、道路沿いの小彼岸桜（7本）の移植

<主な作業内容>

- 太田ヶ谷の森から東側の道路沿いの桜はロボティックセンター建設に伴い水路の付け替え工事が必要であり、一旦、他場所に移植し来年秋以降に再移植することとしている。
- なお、水路の工事は埼玉県がロボティックセンター建設の一環として実施し、完了後は鶴ヶ島市に移管することとなっている。
- 当該場所の桜本数は、2022年5月に14本植樹したが、草刈り等で半分の7本しか残っていなかった。
- 当クラブとしては、桜移植は1年後に再移植するため、移植場所を太田ヶ谷の森内ではなく、ロボティックセンター内の水路近くに仮移植するよう要望していたが、埼玉県庁が建設業者と相談した結果、ロボティックセンター内に移植することができた。（埼玉県庁としては、水路近くの森内を考えていたが、桜は日光が必要であるのでサッカー場東側の日の当たる場所に移植することとなった。）
- 出席者：埼玉県産業労働部次世代産業拠点整備担当主幹 坂本浩之、同部書2人
：建設業者5名、大型ユンボ2台、3トントラック
：里山サポート 3名
- 大型ユンボで7本の桜を掘り起こし、もう1台の大型ユンボで移植場所に1mの穴を掘ってもらった。
- 3トントラックで桜を運搬し、里山会員で穴に埋めなおした。
- 里山の水タンク（100ℓ）で2回注水した。
- 桜の剪定作業を実施し、剪定箇所融合剤を塗布した。
- ロボティックセンターへの立ち入りは今後できないことから、今回の移植作業は丁寧に実施した。

<課題・評価>

- 桜の移植方法として、掘り出した桜を直径50センチのポリポットに入れ、運搬・穴埋めをする予定でポリポットを準備していたが、桜の根が張り出していてポリポットに入らなく、掘り出したままの状態での移植することになった。
- 1年後の再移植を人力で実施することは根の張り具合が無理であることから埼玉県庁に1年後も大型ユンボで作業を実施してもらいたいことを要望し、了解が得られたので一安心である。
- 今回の作業には3人ではきつく動員が必要であった。

<里山参加会員>

橋本、柳川、小沼

<活動写真>

